

開催報告

ジェンダー平等の『これまで』と『これから』

■2026年2月22日(日)

■あかし市民広場(パピオスあかし2階)

13:30～ 開会

【第1部】基調講演
「ジェンダー平等の現在地」

14:45～ 【第2部】パネルディスカッション
「あかしのジェンダー ～“あたりまえ”を見つめ直す～」

15:40～ 【第3部】交流タイム
「みんなで語ろう！あかしのジェンダー平等のこれから」

総合司会

あかし女性応援ねっと
事務局長 柏木 登起



■参加者 85人

開会あいさつ

設立から10年、女性活躍推進といってもどこに焦点を当てて活動していくべきか、試行錯誤の10年であったと思います。多方面からのご理解とご支援を賜り、この日を迎えられたことを嬉しく思い、みなさまのお力添えに感謝申し上げます。

本日のフォーラムは、これまでの10年を振り返り、また、次につながる10年をどのように目指していくのかをみなさまと一緒に考えていきたいと思ひます。みなさまの忌憚ないご意見やご感想を聞かせていただき、よい時間になることを願っております。

あかし女性応援ねっと
代表 崎野 圭子・森 一美



GUEST

丸谷 聡子 明石市長

設立10周年おめでとうございます。この10年間、あかし女性応援ねっとは、勉強会や講演会などを積み重ねてこられました。女性だけではなく男性もいろんな変化があった10年でしたが、このような活動があったことで頑張ってくれた方もいらしたのではないのでしょうか。

明石市では、「あかしジェンダー平等の推進に関する条例」を策定し、学校でのジェンダー教育や男性の家事・育児参画などに取り組んでいます。市役所では、男性の育児休暇取得を応援し、今後は「みらい人財育成プロジェクト」の基本方針をつくり、新たな仕組みも含めて取り組んでいくところです。あかし女性応援ねっとのこれからの10年の活動が、ますますこの明石市にとっても素晴らしいものになるよう応援してまいります。

第1部 基調講演

ジェンダー平等の現在地

講師

大崎 麻子さん

特定非営利活動法人Gender Action Platform 理事

国際的にご活躍されているジェンダー・スペシャリストの大崎さんにジェンダー平等をめぐる世界の潮流をお示しいただきながら、ジェンダー平等の日本の現在地についてや、これからの「明石のジェンダー」を考えるヒントについてお話いただきました。

「ジェンダー平等」はSDG sの5つめの目標として設定されていますが、17すべての目標において、ジェンダー視点のシステムティックな主流化(男女別データの収集、ジェンダー分析、意思決定の場の男女比の均衡)が必要とされています。日本では 2022 年以降、大企業に対して男女間賃金格差や女性管理職比率、男性育児取得率などの情報開示が義務化されたことを契機に、構造的課題を可視化・分析する取組がようやくが進み始めました。

国は、地方の人口減少の要因として若年女性の流出を挙げています。豊岡市、福岡市、松山市では、自治体や女性団体が中心となり、職場・家庭・地域・学校などに存在するさまざまな無意識のバイアスが、若年女性の地域外への流出や女性管理職につながっていることを明らかにし、その改善に向けた取り組みを進めています。

ジェンダー意識の形成には、日々の働き方や制度の在り方が深く関わっているため、社会や組織に内在するバイアスを可視化し、その背景を分析した上で、次の一手をどう進めていくかを考えていくことが大切です。



第2部 パネルディスカッション

あかしのジェンダー
～“あたりまえ”を見つめ直す～

様々な分野で活躍する4人のパネリストに、「あかしのジェンダー」についてそれぞれの取り組みをお話いただきました。

コーディネーター

大崎 麻子さん



上林 将経さん 株式会社 上林電気商会 代表取締役

経営者として企業を強くするには、男女ともに休みを取りやすい環境や、女性の社員登用および活躍推進であると気づき、男性の育児休業を取得しやすい仕組みづくりを進めるなど、柔軟な働き方ができる環境を整えています。



村崎 恭子さん 「メルとモノサシ」運営

かつて女性のための制度が充実した企業に勤めていましたが、制度だけでは限界を感じ、ライフスタイルに合わせて働き方を変えてきました。妊娠出産を経て、今は「つくりたい社会を編集する」を軸に活動しています。



制度や環境を整える取り組みが企業の業績に反映している事例、制度はあるものの使いづらい環境であった事例、生活スタイルに合わせて働き方を工夫している事例、自治体の立場で取り組みを進めている事例を紹介いただきました。

大崎さんからは、その制度や取り組みを、職場や自分の環境に合わせて“選択”できる仕組みが必要であることや、明石市に根ざした取り組みを発展させてほしいとのお言葉がありました。



大澤 歩さん 明石こころのホスピタル 看護部長

看護師は夜勤があるが、変則2交代勤務を導入し、夜勤の時間を短くすることで、ワークライフバランスを進めています。また申し送りや看護記録のデジタル化にも力を入れており、業務を効率化することで、患者ケアの充実につなげています。



森 太郎さん 明石市 市民とつながる課 課長

あかし女性応援ねつとの10年の歩みと並行し、明石市はジェンダー平等の取り組みを進めてきました。2021年にジェンダー平等プロジェクトチームを立ち上げ、2023年にはジェンダー平等推進条例を制定。今は、啓発と支援を両輪とした取り組みを進め、特に明石市の未来を見据え、若年層に向けた啓発にも力を入れています。

第3部 交流タイム

みんなで語ろう！あかしのジェンダー平等のこれから

第1部基調講演や、第2部パネルディスカッションを受けて、これからの明石のジェンダー平等について、グループで意見交換し、発表しました。

【大崎さんの講評】

話がとても盛り上がりましたね。このテーマは制度だけでは不十分で、どう運用するかの工夫が必要です。ジェンダーは女性だけの問題ではなく、男性や若者をどう巻き込むかが大切になってきます。新たな気づきを得るために、デジタル世代である若者との対話も実現してほしいです。



ファシリテーター

あかし女性応援ねつと
運営委員 前田 由美子

閉会あいさつ

本日は、第1部から第3部まで、違った角度から学ぶことができました。何か1つでも心に残るものを持ち帰っていただきたいと思います。大崎さんにはお忙しい中お越しいただき、本当に感謝しております。

これからも、あかし女性応援ねつとは、勉強や交流会を続けてまいります。今日のご参加いただき、本当にありがとうございました。



あかし女性応援ねつと
副代表 小河 作江

